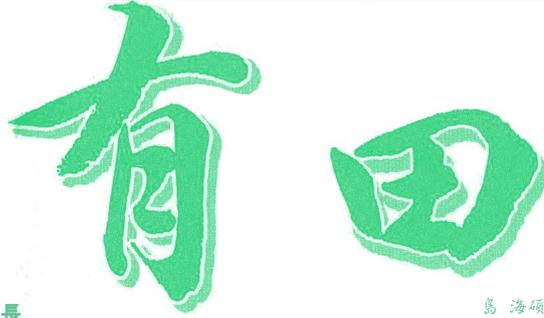


No.2859

2017-2018年度

会長 成川 守彦
幹事 橋本 拓也
R広報委員長 應地 正章

担当：上野山(栄)副委員長



島海碩書

第2640地区
例会日 毎週木曜日 12:30
例会場 紀州有田商工会議所6F
事務所 〒649-0304
有田市箕島33-1
紀州有田商工会議所2F
有田ロータリークラブ
Tel (0737) 82-3128
Fax (0737) 82-1020
創立 昭和34年6月15日
ホームページ <http://www.aridarc.jp>
e-mail office@aridarc.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



本日のプログラム

- 平成30年2月8日 第2860回
・外部卓話：足立 朋実 様 (JICA)
「イスラム教徒は怖い？」
・ソング：「ROTARY」

前回の報告 (第2859回例会)

開催日 平成30年2月1日(木)

点 鐘 (成川(守)会長)

ビジターの紹介 (上野山(捷)親睦活動委員長)

ビジター：溝西 薫 君
(御坊南RC・地区米山学友小委員会委員長)

ニコニコ箱の報告 (川口副SAA)

成川(守)君：嶋田副会長、本日の卓話、楽しみです。童心にかえって拝聴します。
橋本君：嶋田崇さん、本日の卓話、よろしくお願い致します。
溝西薫君(御坊南RC)：本日、宜しくお願ひ致します。
上野山(捷)君：嶋田崇様、卓話楽しみにしています。
木本君：嶋田先生、本日の卓話、宜しくお願ひ致します。
嶋田(ひ)君：嶋田先生、本日の卓話よろしくお願い致します。
上野山(栄)君：嶋田先生、童心にかえり楽しませて頂きます。
児島君：嶋田先生、お話楽しみです。
田端君：嶋田さん、本日の卓話よろしくお願い致します。
上野山(英)君：嶋田崇さん、本日卓話ご苦労様です。小生、所用で中座させて頂きます。
岩本君：今日1日で生石神社まで行きましたが、途中で雪の為登れませんでした。嶋田様、今日の卓話楽しみにしています。
嶋田(崇)君：つたない卓話ですが、宜しくお願ひします。先週、地区財団補助金セミナーに酒井さんと出席してきました。
江川君：嶋田様、卓話よろしくお願い致します。

2017-2018年度クラブ方針

ロータリーを知ろう

～温故知新～

次回のお知らせ

- 平成30年2月22日 第2861回
・後期IDMの発表

- ・ソング：「イツ・ア・スモール・ワールド」



菅原君：嶋田先生、卓話よろしくお願い致します。
酒井君：嶋田さん、先日の財団補助金セミナー、ありがとうございました。申し訳ないですが、本日所用にて早退させていただきます。
應地君：嶋田先生、卓話を楽しみにしています。
松村君：嶋田崇さん、卓話楽しみにしています。
石垣(洋)君：嶋田様、卓話楽しみにしています。
橋爪(正)君：嶋田崇様、卓話楽しみです。
岩橋君：嶋田崇君、卓話楽しみにしています。
橋爪(誠)君：嶋田先生、本日の卓話、よろしくお願い致します。良い話期待しています。勉強させて頂きます。
井上君：嶋田先生、卓話楽しみにしています。
脇村君：嶋田崇さん、本日の卓話、よろしくお願い致します。
中村君：嶋田先生、卓話楽しみです。インフルエンザ大流行です。皆様、お気をつけて下さい。
中元君：溝西様、ようこそ有田RCへ。
川口君：嶋田崇様、本日の会員卓話、楽しみにしています。嫁の誕生日にプレゼントを頂きありがとうございました。

出席報告 (嶋田(ひ)例会運営委員)

本日の会員数32名
(出席規定免除会員9名)
出席会員数26名
(出規定免除会員9名)
83. 87%
1/18 84. 38%
MU：なし

会長の時間

(成川(守)会長)

2月23日はロータリーの誕生日であります。

ロータリーの誕生については、多くの著書がありますが、1905年2月23日に誕生した「シカゴRC」の創生期についての詳しい記録は残っておりません。



シカゴRCが正式な年次報告を作成したのは、1920年からであり、それ以前の記録は、チャールズ・ニュートンの記憶に基づいたものを、後日、記述されたものです。正確な記録なしに、記憶を頼りに書かれたものですから、年月日、場所、内容共に錯誤や正確性を欠く部分がかなりあるようです。

会員歴の長い方はもう耳にタコが出来ていると思いますが、新会員が多いので、これからロータリーの誕生を少し話したいと思います。

<「ROTARY ?」と「Golden Strand」>

シカゴRCの創生期の記録資料として、2冊の本が出版されています。

1933年、シカゴ・クラブ会長ジョージ・ハーガーは、シカゴ大学社会科学調査委員会に対して、シカゴ・クラブの徹底的な分析を依頼します。同委員会は、会員に対するアンケートや提供された資料を基にして、翌1934年に293ページの報告書「ROTARY ?」を出版しました。しかし、その内容があまりにも批判的であったため、ポール・ハリスは、ほぼ完成の域にあった彼の著作「This Rotarian age」の発行を遅らせて、ロータリー運動に誤解を与えないように書き直したという逸話が残っています。

もう一冊は、1966年に出版された「Golden Strand」・・・Oren Arnoldによる非公式なシカゴ・ロータリークラブの歴史であります。

<ロータリーの誕生>

初めて、実業家のクラブを作る考えがポール・ハリスに浮かんだのは、1900年の夏の頃でした。彼は弁護士仲間の友人と夕食をとった後、夕方の冷気に吹かれながら散策を楽しんだ。友人の弁護士は、自分を高く評価している多くの実業家や商人たちをポールに紹介してくれた。

思わずポールは声を出した。

「もしも、このような堅実な人たちとたびたび会うことができれば、それは楽しいことだろう。それぞれの専門職や実業から一人の人が社会的に集まる。」

それは一つのアイデアだったが、漠然としたものに過ぎなかったもので、直ちに実行に移されることはなかった。

1905年 2月23日木曜日の夜、シルベスター・シールという石炭商の友人と、どちらかと言えば気楽に夕食を摂る日がやってきた。彼らは、夕方早めの夕食を摂ることにした。なぜなら、その後で、ループ(シカゴ市内の地名)にある事務所で二人の実業家と会う約束があったからである。

やがて、話題は彼の最初のアイデア、即ち兼ねてから話していた実業家クラブ結成の構想を具体的に説明しました。「私は実業家のクラブについて、ずっと考え続けてきました。それは、シカゴにある今までの社交団体とはまったく違った、新しい種類のものなのです。」「それは、どのように違って、どんな意味を持つクラブなのですか?」

シールは尋ねました。

「そうですね。知己と友情を十分に強調したいですね。しかし、それだけではなく、会員同士がお互いのビジネスを伸ばせたらいいと思います。それは難しいはずはないと思うのですが。」

「例えば、二人の会員が同じ職業を持つことができないと決めればいいでしょう。そうすれば、クラブの中には競争相手がなくなります。もし会員の誰かが品物やサービスが欲しい時には、クラブ内の人と取引する義務を持たせたらいいでしょう。相互扶助の一種だけれど、どう思います?」

ポールの構想に全面的に賛同したシールは、共に、シカゴ市ディアボーン街127、ユニティビル711号室にある鉦山技師ガスターバス・ロアの事務所に赴き、既にその場で待機していたロア、洋服生地商ハイラム・ショーレーと共に、ロータリークラブ設立のための初の会合が開かれたのです。



(1905年2月23日第1回会合の部屋)

<一人一業種で親睦を深める会>

友人たちを見て微笑んでいたポールは、突然、緊張した面持ちになって話し始めました。

「ハイラム君、君は我々の新しいクラブの中で、仕立て屋



THE FOUR ORIGINAL ROTARIANS

(ロータリーの創始者4人)

という職業を持っています。私は弁護士です。それぞれのメンバーは自分自身の職業を持っているのですから、我々は

お互いに、自分の職業を活かした取り引きをしてはどうでしょう。」

この日の会合では、「一人一業種で親睦を深める会を作る」という設立の主旨が熱っぽく語り合われ、四人の友人たちは興味をもって話合った。

＜二回目の会合＞

1905年3月9日に、ウォルフビルにあるハリスの事務所で開かれた二回目の会合では、再びクラブの主旨と可能性が討議されました。出席者はハリス、シール、ロア、ショーレー、印刷業ハリー・ラグルス、不動産業ウィリアム・ジェンセン、オルガン製造業アル・ホワイトであり、「事業の経営者、共同経営者、または会社役員でなければ会員になれない」ことが決められ、更に、今後の会合の持ち方についても議論が闘わされました。

「個々の会員の事務所で代わる代わる例会をしたらどうだろう？」

ハリスはそう提案しました。「その方法なら、我々それぞれはすぐお互いの職業に対する詳しい知識がつかはずです。持ち回りという取り決め事はすばらしいことだと思います。」

その考え方は貴重な意見だったので、満場一致で採用されました。

＜三回目の会合＞

3回目の会合は、3月23日にステート通12にあるシルベスター・シールの事務所の石炭置場で開催され、この会合の出席者は、ハリス、シール、ロア、ショーレー、ラグルス、ジェンセン、保険屋チャールズ・ニュートン、洗濯屋アーサー・アーヴィンが含まれていました。

シールの会社で会合を開いたことを記念して、ポールの指名によって初代会長にシルベスター・シールが就任。ショーレーは記録担当幹事に、ジェンセンは連絡担当幹事に、ラグルスは会計の仕事が割り当てられました。すべての役職は、満場の拍手をもって選ばれ、シール会長は激励と善意についての短いスピーチをしました。

この会合でロータリークラブという会の名称が決まり、会員身分や役職も一年限りでローテーションすることが決められました。

この三回の会合の、何れの日をもってロータリークラブ設立とするかについては、最初に会合が開かれた日であるとか、規約が定められた日とか、法的に幾つかの解釈もありますが、RI理事会は1905年 2月23日に開かれた会合を最初の会合と認めて、この日をロータリー創立の日と定めています。

ロータリーの100年余の歴史については、3月のロータリーカレッジで詳しく話したいと思います。

参考文献:「ROTARY?」シカゴ大学出版(田中 毅 訳)
「Golden Strand」Oren Arnold(田中 毅 訳)

幹事報告 (橋本幹事)

1. 地区から、有田RCのクラブ活動の月信への投稿依頼がきました。本日の理事会で審議します。
2. 2月のロータリーレートは、110円との報告がありました。
3. 昨年7月～12月の寄付に関して、本日皆さまに「確定申告用寄付金領収書」を配布しています。再発行できないので無くさないようにして下さい。
4. 他クラブから例会変更のお知らせが届いています。
5. クマヒラ製作所から小冊子が送られてきましたので、皆様に配布しました。
6. 1月28日に次年度地区米山記念奨学委員会が開催され、私が参加しました。



委員会報告

*R広報委員会(上野山(栄)副委員長)
ガバナー月信の配布について

*ロータリー財団委員会(酒井委員長)
1/28(日)R財団補助金セミナー参加の報告

*米山記念奨学委員会(松村委員長)
米山記念奨学会の特別寄付について、親の寄付実績を引き継ぐことができます。これを希望される方は米山の特別寄付をする時にお申し出ください。

*地区社会奉仕委員会(上野山(栄)委員)
1/27(土)、和歌山市美園において、地区の社会奉仕委員会に参加してまいりました。内容については、今年度の今後の事業についてです。

卓話

「童心にかえる」



会員
嶋田 崇 君

【プロローグ】

前回の卓話の時にもお話したが、落語の世界では本題に入る前に枕といって一般的な世間話から入る。今日の本題「童心にかえる」もこれだけを話せばすぐに終わる

から、関係のない話も入れるのでお許し願いたい。

【年賀状】

今年、数枚の同じ趣旨の年賀状を受け取った。‘高齢のために来年以降の年始のご挨拶を控えさせていただきます’というもの。今までも頂いたことはあったが、今年のように数枚纏めて頂戴したのは初めてで、その中の1枚は義父からであった。私もこのまま年を重ねればいつかこのような時が来るのかと、少し神妙な面持ちになったお正月だった。

【童心にかえるーRC入会時の話】

ロータリークラブ創始者のポールハリスは、ロータリーの例会に出席すると童心にかえると云った。ロータリークラブを表現する私の一番好きな言葉である。つまり、ロータリークラブの例会へ出席すると普段の全ての嫌なことを忘れて、無邪気な子供のような気持ちになれると言った。私もそのような気持ちでこれまでロータリークラブの例会へ出席してきた。私の当クラブ入会は、平成6年7月7日で、入会時の会長は三洋住宅の上野山泰生さん、幹事は現役の上野山英樹さん、SAAは最近残念ながらご逝去された船尾さんであった。私は最初副SAAに配属になり、私の他3名と船尾委員長を含め計5名で例会の準備にあたった。この入会当初のSAA5名による例会前の準備がとても思い出深いもので、後々の私のロータリー活動の原点になったのは間違いのないことである。

また、余談かもしれないが、私のロータリー入会の年に野茂英雄が海を渡り、ロサンゼルスドジャースに入団し、米国のみならず日本でも大きな話題になった。私も彼のファンとなり、テレビでよく観戦したものだ。ただ、ロータリーの例会と重なった時は、帰宅後、楽しみのビデオ観戦になるのだが、それ以上にロータリーの例会への出席の方が楽しかったという思いが強い。つまり、例会前に先程の4名の仲間が男の趣味の話(ゴルフの話、お酒の話など)で盛り上がり、つらい仕事のことなどすっかり忘れてリラックスし、そのまま例会を1時間過ぎて帰宅し、野茂の試合を観るわけです。本当に楽しい時間でしたし、これが童心にかえる最初の経験だったのではないかと云う。

【私の生い立ちー幼児から現在まで】

私は、幼い頃から人一倍人見知りの激しい子で、典型的な内弁慶で、よく言うアカン子であった。生地の保育園では馴染まず、ぶっとく幼稚園で1年間お世話になり、母親の手を焼かせたものである。地元の小学校、中学校、高校を卒業し、大阪の大学を経て24歳で和歌山へ社会人として戻ってきた。そして25歳の時に有田青年会議所(有田JC)に入れて頂き、このクラブにもJCの先輩後輩が多く在籍している。JCは40歳で卒業なので15年間お世話になり、元来の内向的な性格は少し改善されたが、基本的な部分での改善はなされなかった。JC卒業後、41歳の時に有田ロータリークラブに入会させて頂いた。今までJCに割いていた時間がすっぽりと空いてしまい、予てよりしたかった読書に全力を投入し貪るように本を読んだ。その結果、すぐに気付いたことは、自分の周りの環境をより

良いものにするためには、自分が変わらなければ周りは何も変わらないということ！であった。つまり、元来の内向的な性格を転じて、より積極的に前向きに生きようと決心した。その修行の場となったのがロータリークラブである。その第一歩が最初にお話した副SAA時代であり、彼らとの楽しい経験がその後の私の生き方に凄く影響を与えたように思う。今では初対面の方でもすぐにフレンドリーな関係を築くことができるようになった。

【エピソードーグリスペクトの大切さ】

童心にかえるためには何が必要か？まず、自分をさらけ出すこと！厳しい生存競争を勝ち抜いてきたいいわゆる勝ち組の人たちには、本当の自分を隠す術を知っている方が多い。ロータリーではそんな術は全く要りません！一人でも多くの方が本当の自分を出して例会に参加すれば、もっともっと例会は楽しくなるはず。私がいつもロータリーで提唱していることは、例会日には少しでも早く会場に到着し、開会までに多くの会員とお話して下さい。趣味の話で盛り上がって下さい。これが楽しいロータリーライフの原点です。一つだけ私がとても大切にしている公平な人間関係構築のためのテクニックをご披露します。自分の周りを見て、この人には勝っているが、この人には負けていると判断される方が多い。また、そのような人の中で、自分が勝っていると思う人を無視し、自分の利益になるような人にだけ擦り寄って行く人がいるが、好ましい人とは言えない。私のモットーは、どんな人でもリスペクト(尊敬)すること！どんな人でも必ず長所があり、それを認めてあげることがとても大切であり、公平な人間関係を築くための必要条件であると思う。そしてそのようなところから、本当の自分を出し合って、楽しいロータリーライフを送って頂けたらと考えている。

閉会・点鐘 (成川(守)会長)

次週2月15日(木)は
休会です。



～後期 I DMの開催～

テーマ:

「ロータリーができる
地域課題に向けた事業とは？」

日時: 第1班 平成30年2月15日(木)
第2班 平成30年2月16日(金)
午後6時30分～

場所: 橘家